

I 調査の概要

1 調査の経緯

栃木県総合教育センターでは、平成9・10年度に「児童生徒の学校外における生活実態調査」を実施し、本県児童生徒の普段の生活状況について考察を行い、その結果を紀要で報告した。また、その後も児童生徒の発達課題に関する研究などを通して問題点とその対策を探ってきた。

近年、児童生徒の社会性や心と体の健康をめぐる様々な問題や学力を危惧する声が高まっていることから、本県においても学びの場としての学校教育の機能を再検討することが必要と考え、平成14年度には質問項目を検討し、平成15年度は調査の実施と単純集計の結果を中間報告にまとめ、今年度（平成16年度）には詳細な分析・考察をして報告書にまとめるという3か年計画で実施した。

なお、分析・考察においては、宇都宮大学教育学部の横島章教授からご指導、ご助言をいただいた。

2 調査の目的

本県児童生徒の生活習慣や行動傾向を把握し、本県の子どもに関する基礎資料として報告書を作成し、学校及び教育研究団体、教育行政機関等への情報提供を行うことにより、本県の教育振興ビジョンに示された「学ぶ力をはぐくむ教育の充実」と「心の教育の推進」、ひいては「生きる力をはぐくむ学校教育の充実」に寄与する。

3 調査の方法

(1) 抽出方法

平成9・10年度に実施した「児童生徒の学校外における生活実態調査」との比較を考慮し、前回の抽出方法を踏襲した。

ア 栃木県内市町村立小・中学校

市町村人口規模別、学校規模別のグループを設定し、それぞれのグループから偏りがないう無作為に学校を抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

イ 栃木県立高等学校

全日制高校について学区・学科別のグループを設定し、それぞれのグループから偏りがないう無作為に抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

(2) 調査対象

| 学 年 | 対 象 学校数 | 実施児童 生徒数 | 男女別内訳 | |
|----------|------------|-------------|-------|------|
| | | | 男子 | 女子 |
| 小学校第2学年 | 26 | 754 | 391 | 363 |
| 小学校第5学年 | 26 | 777 | 380 | 397 |
| 中学校第2学年 | 23 | 706 | 363 | 343 |
| 高等学校第2学年 | 20 | 755 | 397 | 358 |
| 計 | 95 | 2992 | 1531 | 1461 |

(3) 調査方法

質問紙により回答を求めた。所要時間は各学年とも概ね40分程度とした。

(4) 実施期日

平成15年9月16日（火）から10月17日（金）までのうち、学校が定めた期日。

4 質問の構成

各学年の質問項目は、下表に示した3つの領域から成っている。各領域の項目数は、学年により異なっている。AとBの領域には、過去の状況との比較のために栃木県総合教育センターが平成9・10年度に実施した「児童生徒の学校外における生活実態調査」の質問が数問含まれている。

なお、Cの領域は、生活の状況と心と体の健康との関連を探るために今回新たに導入したものである。これは、文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課が平成13年度に実施した「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」の質問項目を用いた。

表 各学年の領域別質問項目数

| 領域 | 学年 | | | | 備 考 |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------------|
| | 小学校 第2学年 | 小学校 第5学年 | 中学校 第2学年 | 高 校 第2学年 | |
| A あなたの普段の生活について | 16 | 18 | 18 | 18 | 小2のみの質問あり。小5から高2まではほぼ同じ質問である。 |
| B 勉強のことについて | 4 | 7 | 7 | 7 | 小2のみの質問あり。小5から高2まで同じ質問である。 |
| C あなた自身のことについて | 3 | 36 | 42 | 42 | 小2は3問のみ。小5は、中2（高2）の質問を数問減らしたもの。 |